

「第三の居場所」の運営支援

2020年度 事業報告書

2021年 7月
B&G財団 企画課

○目的・実施背景

近年、家庭の抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中で、安心して過ごせる居場所がなく、孤立してしまう子どもも少なくない。日本財団は、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感、人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」の設置を全国で推進している。

このような中、B&G 海洋センター所在自治体において、日本財団が推進する「子ども第三の居場所」をモデルに、子供が安心・安全に過ごすことができる居場所を設置し、学習支援・生活支援ほか、海洋センターのノウハウを活かした多様な体験を提供することにより、子供の将来の自立に必要な力を育むことを目的とする。

○事業内容

1. 「第三の居場所」運営支援

「第三の居場所」12自治体13カ所を対象に、学習・生活支援プログラムや体験活動の実施など運営に係る支援を行った。

対象：大分県杵築市、茨城県笠間市、埼玉県嵐山町、新潟県胎内市、島根県雲南市、長野県大町市、北海道東神楽町（2カ所）、石川県穴水町、新潟県燕市、岡山県美作市、岡山県奈義町、京都府南丹市

2. 拠点スタッフ研修の実施

「第三の居場所」を運営する自治体担当者および拠点マネージャーを対象に、各拠点進捗報告や外部講師による講義など、拠点の円滑な運営に繋げるための研修会を実施した。

3. オンラインイベントの開催

「第三の居場所」全拠点を対象に、拠点での支援の充実および拠点間の交流を目的としたオンラインでのイベントを複数回開催した。

○事業内容詳細

1. 「第三の居場所」運営支援

「第三の居場所」を運営している12自治体13カ所を対象に、人件費や光熱水費、プログラム実施に係る費用など、拠点運営に係る費用等を支援するため、下記のとおり運営助成金の決定および交付を行った。

No	拠点名	運営助成金決定額	支払い済み額
1	茨城県笠間市	20,000,000円	20,000,000円
2	埼玉県嵐山町	20,000,000円	20,000,000円
3	新潟県胎内市	20,000,000円	20,000,000円

4	島根県雲南市	20,000,000円	20,000,000円
5	大分県杵築市	20,000,000円	20,000,000円
6	長野県大町市	16,700,000円	16,700,000円
7	北海道東神楽町(中央)	16,700,000円	16,700,000円
8	石川県穴水町	15,000,000円	15,000,000円
9	北海道東神楽町 (東聖・ひじり野)	13,400,000円	13,400,000円
10	新潟県燕市	20,000,000円	20,000,000円
11	岡山県美作市	20,000,000円	20,000,000円
12	京都府南丹市	10,000,000円	10,000,000円
13	岡山県奈義町	10,000,000円	10,000,000円
合 計		221,800,000円	221,800,000円

2. 「第三の居場所」運営支援

(1) 各式典の開催

①協定書調印式・施設内覧会

2020年度開設の4自治体4ヵ所にて、助成が終了する4年目以降も、自治体はじめ関係団体等の連携のもと、継続して運営することを確認するため、協定書を締結した。また、第三の居場所に対する理解や協力を深めるための場として、関係者やメディア等を対象に拠点内覧会を実施した。

・対象：北海道積丹町、岡山県備前市、京都府南丹市、岡山県美作市

※同じく2020年度開設自治体である、新潟県燕市および岡山県美作市については、新型コロナウイルスの影響により延期となった。

《協定書調印式・施設内覧会の様子》



協定書調印式（岡山県備前市）



協定書調印式（京都府南丹市）



施設内覧会（北海道積丹町）



施設内覧会（岡山県備前市）

②助成決定書授与式

- ・対象：岡山県奈義町
- ・内容：「第三の居場所」の施設整備等に係る開設費および3年間の運営費総額9,000万の支援の決定

※3月に実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期となり、協定書調印式と同日に開催した

《助成決定書授与式の様子》



助成決定書授与式（岡山県奈義町）

(2) 各研修会の開催

①フォローアップ研修会

「第三の居場所」を運営する全拠点を対象に、拠点運営の向上に繋げることを目的とした研修会を開催。各拠点の進捗報告や先行拠点の視察、事例発表等を行った。

- ・時 期：2020年12月10日（木）～11日（金）
- ・場 所：地域交流センターともべ「Tomoa」および笠間拠点（茨城県笠間市）
- ・参加者：全 14 自治体 15 拠点の自治体担当者および拠点マネージャー 等
計 33 名（現地出席者 14 名、リモート参加者 19 名）
- ・内容：各拠点の進捗報告、外部講師による講義「発達障害児や愛着障害児への理解と対応について」、関係機関との連携・アウトリーチ方法、子どもや家庭への支援、拠点の運営内容等に関するディスカッション等

《研修会の様子》



各拠点進捗報告



外部講師の講演（オンラインにて）



拠点施設見学



ディスカッション

《参加者の声（一部抜粋）》

- ・ コロナ禍で現地に伺うことが難しい中、オンラインで参加することができ、大変ありがたかった。
- ・ 特性のある児童との関わり方などを学ぶことができて良かった。
- ・ 災害時対応等、他拠点の取組みを知ることができ、参考になった。

(3) オンラインイベントの開催

「第三の居場所」を運営する全拠点を対象に、拠点での支援の充実や拠点間交流等を目的としたオンラインイベントを開催。クイズや工作教室等、様々なレクリエーションを通じて、拠点同士の交流を深めた。

- ・ 時 期：2020年12月～2021年3月
- ・ 場 所：各拠点（オンライン）
- ・ 対 象：全15拠点（計4回開催し、228人が参加）
- ・ 内 容：拠点对抗イベント、運動講座、工作教室 等

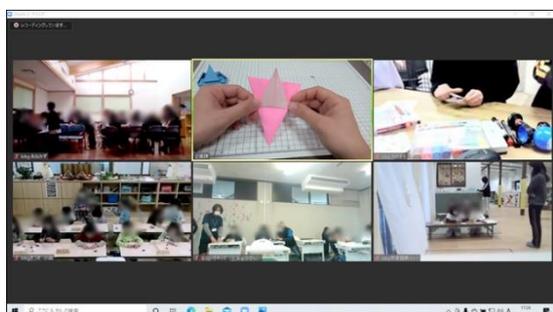
《オンラインイベントの様子》



オンラインイベントの様子



拠点で流行っているものを紹介



オンラインで工作教室を実施

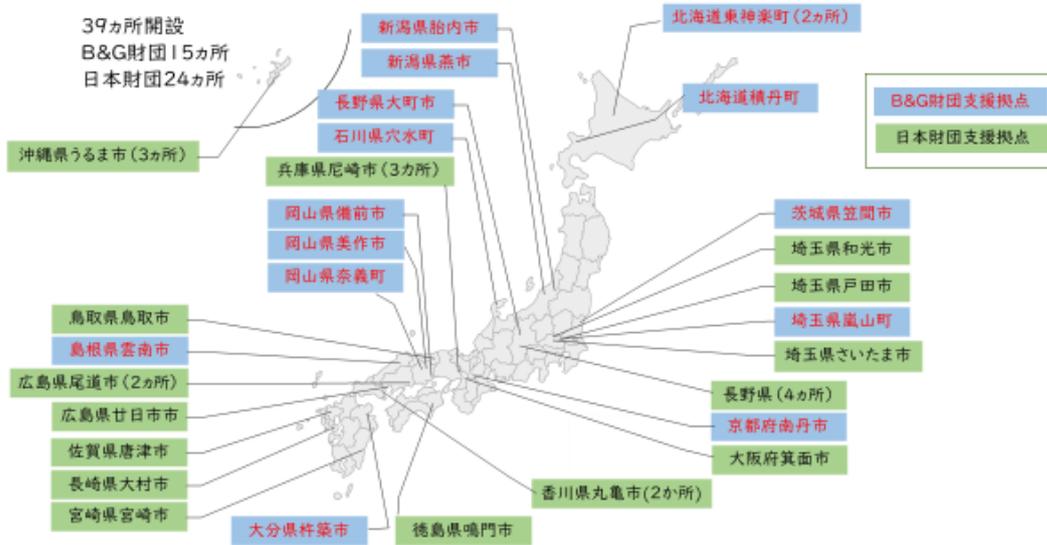


工作教室で完成したものを披露

○「第三の居場所」開設状況（2021年6月現在）



「子ども第三の居場所」全国の開設状況



○「第三の居場所」内観と主な活動



食事

読み聞かせ

学習



手作り秘密基地

学習

支援員との遊び



カヌー体験



そば打ち体験



ケーキ作り体験

以上